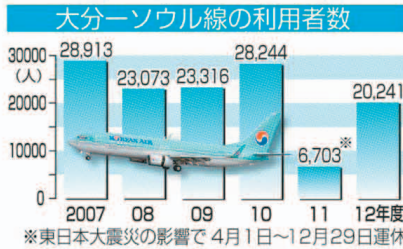


大分—ソウル線

再開後も不振



大分空港を発着するソウル線の利用者数が伸び悩んでいる。東日本大震災の影響で運休した後、2011年12月末に再開したが、12年度の利用者数は運休前と比べ3割弱の減少。福岡と韓国を結ぶ格安航空会社（LCC）との競合も不振の一因となっている。例年、夏場は韓国からの観光客が少なくなり、大分県は路線維持にも影響しかねないとして、国内からの利用増を促す方針。

県によると、同路線は10月休した。再開後は週3往復から2往復に減便。路線復活を歓迎している。大分県内の韓国人は増加したが、昨秋以降、北朝鮮前年を上回って推移して低迷を見越して期間を4

福岡と競合や円安影響 県、国内客増に期待

鮮をめぐる情勢不安や円安基調への転換で韓国への旅行ムードが冷えた。韓国人の利用も運休前の水準に届かず、12年度の利用者数は2万2411人とどまっていた。本年度に入っても前年割れが続いている。LCCの福岡—ソウル線の助成制度で韓国旅行を促

おり、大分線から他空港の韓国路線に利用がシフトしていることもうかがえる。県は国内からの利用増で減少を抑えたい考え。グループ旅行者（4人以上で1人4千円）や片道4回以上のリピーター向け（8千円）の10月に延ばしたが、申請数は6月13日までで70人不足が鈍いという。県交通政策課は「直通便があることで、海外に開かれたイメージが作り出せている。利用を呼び掛けている」と

大分—ソウル線は大分航空（韓国）が運航し、1992年に就航。本年度の夏季ダイヤは大分発が毎週金曜日の午後3時5分と日曜日の午後6時55分、ソウル（仁川）発が金曜日の午後0時半と日曜日の午後4時20分。現在、大分空港で唯一の国際定期路線。

(2013年6月17日朝刊1面)

大分空港を発着するソウル線の利用者が伸び悩んでいます。県は利用増を促す方針です。

①利用者伸び悩みの要因は何だと考えられますか。

.....

.....

.....

.....

②大分県がソウル線維持を図るのは、何のためと思われますか。

.....

.....

.....

.....

③韓国への出国者、韓国からの入国者を増やすためには、どういった取り組みが良いと思いますか。話し合ってみよう。

.....

.....

.....

.....